平成26年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	無線工学(Telecommunication Engineering)			授業コード	C187701
担当教員名	片山　秀則			科目ナンバリングコード	
配当学年	3	開講期	前期		
必修・選択区分	選択	単位数	2		
履修上の注意または履修条件	国家試験の合格を目指します。				
受講心得					
教科書	プリント				
参考文献及び指定図書					
関連科目					

授業の目的	国家試験の合格を目指します。
授業の概要	国家試験の合格を目指します。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第 1 週 ： ガイダンス 無線工学の概要について説明します。	課題提示
第 2 週 ： デジタルテレビ進化のシナリオー1 アナログテレビからデジタルテレビへの必要性について説明します。	課題解答・課題提示
第 3 週 ： デジタルテレビ進化のシナリオー2 デジタルテレビの実現のための技術と更なる発展について説明します。	課題解答・課題提示
第 4 週 ： デジタル放送のビジネス展望 デジタルテレビだけでなく音声・データの放送についての将来性について説明します。	課題解答・課題提示
第 5 週 ： 家電メーカーのデジタル戦略 家電メーカーのデジタル戦略だけでなく専門メーカーの動向について説明します。	課題解答・課題提示
第 6 週 ： 地上テレビ放送の高度化 地上テレビ放送の高度利用について説明します。	課題解答
第 7 週 ： 論文形式による小テストとその解答・解説 将来像についてのレポートを作成し、発表します。	解答
第 8 週 ： デジタルテレビを支える技術 デジタルテレビを実現する技術についてパソコンと対比させながら説明します。	課題提示
第 9 週 ： デジタル地上波音声放送の実用化 デジタル音声放送について説明し、将来性を検討します。	課題解答・課題提示
第10週： どこでも視聴できるテレビ放送 どこでも見えるテレビについて検討します。	課題解答・課題提示

第11週： ブロードバンド時代における放送の将来像 デジタルテレビだけでなくインターネットをも含む放送について検討します。	課題解答
第12週： 論文形式による小テスト ブロードバンド時代の放送についてのレポートを作成し、発表します。	解答
第13週： 放送を取り巻くメディア環境の変化 放送業界・メディア業界について調査・研究をします。	課題提示
第14週： 広域系移動体通信サービス 移動体通信について個人・公共・国内・世界での利用を説明します。	課題解答・課題提示
第15週： 構内系移動体通信システム 構内系移動体通信について説明します。	課題解答
第16週： 期末試験 通信・放送について個人・公共・国内・世界での利用を提言するレポートを作成します。	

授業の運営方法	（1）授業の形式	「講義形式」
	（2）複数担当の場合の方式	
	（3）アクティブ・ラーニング	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	授業への関心・理解への意欲・積極的な態度について評価します。
【知識・理解】	国家試験に必要な知識を理解します。
【技能・表現・コミュニケーション】	積極的な取り組みがレポートの記述に反映されている場合は評価を高くします。
【思考・判断・創造】	

○成績評価基準（合計100点）			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	**期末試験・中間確認等（テスト）**	**レポート・作品等（提出物）**	**発表・その他（無形成果）**	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。				
【知識・理解】 ※「専門能力〈知識の獲得〉」を含む。	**70点**	**10点**	**20点**	
【技能・表現・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ】 ※「専門能力〈知識の活用〉」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。				
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。				

（「人間力」について）

※以上の観点に、「こころの力」（自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力）と「職業能力」（職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力）を加えた能力が「人間力」です。

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安

成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等（提出物）	必要に応じて課題を出します
発表・その他（無形成果）	演習問題・課題・宿題の発表者には加点します。